

サンダース・ジェフ

ヨハネの福音書6章25節－35節

「箇所概論」今日・・・

「祈り」お祈りいたします

あなたの御名みなを心から賛美します。主よ、あなたは私たちの造り主、全世界しはいを支配しておられるお方です。ただ一人、賛美を受けるにふさわしい方、私たちの命、私たちの力、私たちの全てです。あなたのほかに救いはありません。栄光えいこうと誉れほまれとは、とこしえにあなたのものです。どうか神様これから私たちを御心のままに導みちびいいてください。イエス様の御名によってお祈りいたします。

がいろん
「概論」

日本の民話みんわに小さい村に住んでいる石切さんが石を切るお話があります。彼は毎日一生懸命石を切ったり市場いちばでお客さんに売っていました。彼の服はいつも汚れていたり手も傷きずだらけでした。ある日仕事している時、疲れてきてそばの木の下で昼寝をすることにしました。でも間もなく長い行列が通っている騒音そうおんで彼は目を覚ましました。行列の中に王座おうざに座り運ばれている王様が見えました。王様は強きょうりよく力しはいしゃな支配者で周りの人から尊敬そんけいされていました。「王様はいいな、石を切るより王様として働きたい」と石切さんは言いました。それを言うと彼は王様が変わって、素敵な服を着て皆さんに運んでもらっていました。「わああすげえな。これは最高！」でもしばらくして太陽が雲から出てきてキラキラかがやきました。「いや暑い！これは最悪だ。王様より太陽の方が本当に強いのではないか。太陽になりたい」と彼は言いました。すると彼は王様から太陽かがやきが変わって明るく輝きました。新しい力を楽しんでいると彼を大きい雲おおつが覆かがやくって輝くことができなくなりました。どんなに努力してみても無駄でした。太陽より雲くもの方が強い、ということに気がついて大変落ち込んで来ました。「もし雲くもになれるならば、何もいらない」といったら雲くもが変わりました。太陽かがやくを輝くのを止めとめさせることができるだけではなく、彼は雲として好きなだけ雨を降らせたり洪水こうずいを引き起こしたりしました。引き起こした洪水こうずいで家や木などを流いしました。大きな石以外な

んでも流すことができました。大きな石以外。彼はまだ自分よりも強^{きょうりよく}力^{ちから}なものがあることに気づきました。その時、彼は石切さんに戻りました。彼の服はまだ汚れたし手も傷^{きず}だらけだったけれども満足でした。

これはただの民話ですけど、私たちは石切さんとそんなに違いがないのではないだろうか。石切さんと私たちの考え方はそんなに遠くないのではないだろうか。「仕事で昇進^{しょうしん}できればいいのに」とか「給料上がればいいな」「綺麗になれば十分だ」「少なくとも友達が1人できれば嬉しくなる」とか「日本語を話せれば幸せ！」とか。そして私たちは自分の状態^{じょうたい}があまり好きじゃない時どうしますか。私たちの人生があまり好きじゃない時どうしますか。今の自分に満足していない時どうしますか。頑張^{がんば}って働くんじゃないですか？ 本当に満足していない時一生懸命努力するんじゃないですか。成功^{せいこう}したいと思うなら、一生懸命努力しなきゃ。満足しようと思うなら、自分次第^{しだい}ですね。

自分自身の努力なしで本当に幸せになれるとは信じにくいです。私たちは自分以外の力で生活の中で満足できるとは考えません。これは単に私たちの人間性^{にんげんせい}の問題^{もんだい}ですね。クリスチャンでも人間の墮落^{にんげん だらく}以来、幸せな生活を送るためには自分を信頼^{しんらい}しがちです。自分の生活に完全に満足することはないのではないのでしょうか。しかし私達をすっかり満たすためにイエス様がすでに来ました。でもイエスキリストが私達に満足^{まんぞく}をくださることが出来ますか。それは本当に可能^{可能}ですか。今日の箇所を通してキリストがあなたの人生に充実感^{じゅうじつかん}をもたらすことができる唯一^{ゆいいつ}の人だということを深く考えましょう。今日の説教には3つのポイントがあります。キリストの提供^{ていきょう}する満足は果てしなく、無償^{むしょう}で、ほかには何も必要^{必要}としないということについての3つのポイントです。

「第1のポイント」キリストの提供する満足は果てしないということです。

ヨハネの福音書をよく知っていれば、イエス様はもう洗礼^{せんれい}を受けたしヤコブの井戸^{いど}でサマリアの女に出会ったし王室^{おうし}の役人の息子と池の周りの足の不自由な人を癒^{いやし}しました。そして5000人にパン5つと魚2匹から与えました。その結果、今イエスに従^{したが}う群衆は大きくなってきました。でもこの群衆^{しただごころ}は下心^{しんごころ}があってイエス様を王にしたがっていました。ヨハネの福音書6章15節をご覧ください。「イエスは、人々がやって来て、自分を王にする

ために連れて行こうとしているのを知り、再びただ一人で山に退かれた。」
この群衆はイエス様が偉い先生であることを知りましたが、彼が言ったことの真意が分かりませんでした。群衆は彼を王にしようとしながら、彼の王権と国は全く分かりませんでした。すでに海の向こう側でイエスを見つけた時、「いつここに来たか」という質問しました。でもイエスはそれに答えるより、むしろ彼らの動機を指摘しました。26節を見てください。「あなたがたが私を探しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからです。」彼らはお腹がいっぱいでしたけど印の真意を理解できませんでした。群衆は印のパンだけを見ました。

27節でイエス様は群衆に話しかけ続けます。「なくなってしまふ食べ物のためではなく、いつまでもなくなる、永遠のいのちに至る食べ物のために働きなさい。」前日の食べたパンは奇跡によって備えられましたが、物理的なパンだけですね。使ったら消滅するものですね。イエス様が言おうとしていることは、なくなる物や崩れる物の為に働かないでくださいということです。新しいiPhoneの為に働かないでね。来年アップルの新型が出るよ。この箇所ではイエス様は群衆の物質的な欲望について話していました。人の子が提供する、永遠に命を支えることができる食物のために働きなさい。もちろん、イエスは自分のことを言っていました、群衆は理解できませんでした。

「実例」

皆様はすでに知っていると思いますが、娘はドラえもんが大好きです。毎日のように見えています。私が家に帰ると娘はいつも私に挨拶しますが、ある日おかしいことが起こりました。家に入ったら、「ただ今」と言ったけど「お帰り」と言った人は妻しかいなかったですよ。「あれ？ エメリーはいないの？」でもリビングに入ったらエメリーがいました。「ああエメリーただ今。」ともう一度言ってもドラえもんが夢中になっていて、何も言わないでテレビを見続けました。私は娘を愛しているので彼女を助けると決めました。ですからテレビの前に立ってやりました。でもエメリーは私の顔を見ないで「どいて、見えないよ」といいました。びっくりしました。

「適用」

「へえ僕よりドラえもんが大切なの」と考えました。まあ一彼はどこでもドアを持っているけど彼は毎日必要なものを与えてくれる？ 絶対ないよ。そのあとこの箇所を思い出して「群衆についてイエス様はそう思ってい

たかな」と考えました。「へえ！パン？！それより私の方が大切じゃないの。」私たちは人間だから現在を強調しすぎになりがちですね。例えば昇進しても新しいものを手に入れても、まだ満足することができません。

次の昇進か次の新型も考え始めます。その新しいものがあつたら素敵な生活を送れるに違いないと考えている人は多いです。でも喉から手が出るほど欲しがっているものを手に入れても、すぐがっかりします。すぐ失望します。そういうものは素敵な生活を与えることができませんから。満足することができません。

この箇所を通してイエス様は私たちに物質的な物となくなってしまう物に夢中になることをやめるべきだと伝えようとしています。イエスは「永遠の命に至る食べ物^{ぶつしつてき}の為に働きなさい。」と言われました。それだけでは、いつまでも続きますから。そんなに現在や色々なものを目指していれば神様の臨在と愛を経験しにくいです。でも私たちの必要なものが大切じゃないわけではありません。そしてイエス様は私達に必要な物を与えないわけではありません。しかし、イエスは群衆に、提供した食物が永遠に維持すると考えているなら、彼らは失望するということを理解してほしいと思っておられます。そしてイエスは、群衆に彼らの善行が永遠の命を達成しないことを理解してほしいと思っておられます。なぜならキリストの備えられる満足は無料ですから。それは私の次のポイントです。

「第2のポイント」キリストの提供する満足は無償です。

誤解を解くためにイエス様が自分で群衆にそのなくなるならないパンを提供すると言われました。イエスはダニエル7章のメシアを指す言葉を使用し、群衆には、人の子がそのパンを与えることを伝えます。その名前を使った理由はそういう食べ物を与える権限を示すためです。しかも、27節によるとこの人の子に、神である父が証印^{けんげん}を与られたのです。でも群衆はまたわからなかったです。群衆はその食べ物が神様からの贈り物^{しょういん}ということ^{しょういん}を理解できませんでした。群衆は、彼らが何をすべきかを尋ねる代わりに、このパンを与えるのは誰なのかを尋ねるべきでした。パンを贈り物として受け入れられるのではなく、彼らがそれを取得するために何をすべきかと尋ねました。「どうする。どうすればいい？このパンを受け取るために私はどのぐらい大変なことをすればいいですか？」という感じでした。でも群衆の自信は高すぎました。群衆は神様から命令されたことを自分がなんでもできるとい

う自信がありました。彼らは達成する能力を疑うことはなかったです。でもイエスは群衆に単純に神様から遣わされたものを信じなさい。自分自身を信じるのではなく人の子への信仰によってこのパンをもらうことができると言いました。

「適用」

神は私たちにもっと一生懸命頑張ることを要求していませんが、神がすでに成し遂げたことを信じるよう望んでおられます。イエスの贖いの犠牲のおかげで、救いのためにキリストだけに信仰を置く人は永遠のいのちを保障されています。でも神様や他の人を信じるより自分自身の方が信じやすいので、私たちは自分だけに頼る傾向があります。歴史を通してそう考えている人は多かったです。でも救いについてキリスト教は別の宗教と違います。なぜなら私たちの救いは私たち自身次第ではなく、他の誰かに完全に依存していますから。救いを手に入れるために自分自身を信じるなら、いつも心配になって十分にやっているかな、と不安になります。そんな心配をしなくていいように、イエス様は来ました。ローマ人への手紙3章によると「しかし今や、律法とは関わりなく、神の義が示されました。すなわち、イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義です」そして、イエス様の義を通して満足な生活を送ることができます。ヨハネの福音書10章10節イエスが「盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかなりません。わたしが来たのは、羊たちがいのちを得るため、それも豊かに得るためです」と言いました。しかもイエスの贖いの犠牲のおかげで、私たちの魂は満たされ、この豊かな命を生きることができます。その結果、他のものに対する私たちの欲求は減少していきます。そして最後のポイントは・・・

「第3のポイント」キリストの提供する満足は、ほかには何も必要としないのです。

次、群衆はイエスに他の印をするように頼みました。今までイエスは権威を持って教えたり、印と大いなる奇跡を行ったりしました。そして最近少量の食べ物だけで5000人に与えました。でも群衆は満足しないでもっと欲がりました。そこで群衆はイエスをモーセと比較し始めました。「あなたが5000人に食事をあたえたのは感心しないよ。私たちの先祖は40年間荒野で

マナを食べた」 「あなたが私たちに感銘かんめいを与えたいなら、モーセよりも大きな奇跡きせきを行う方が良いでしょう。」 「もっとパンを作り始めた方が良いでしょう。それとも別のレシピを使った方が良いでしょう。」 という感じですね。群衆は、モーセではなく先祖せんぞに食べ物を与えたのは実際には神であることじっさいを理解していませんでした。次の節でイエス様は群衆に答えました。「それで、イエスは彼らに言われた「まことに、まことに、あなた方に言います。モーセがあなたがたに天からのパンを与えたのではありません。わたしの父が、あなたがたに天からのまことのパンを与えてくださるのです。神のパンは、天から下ってきて、世にいのちを与えるものなのです。」

「適用」

私達は祝福しゅくふくのためにイエスに従おうと思いませんか？ 私たちの罪のために、イエスが私たちのためにすでにしてくださったことに満足していない、あり得ますか？ 私たちはなかなか満足しないので、イエス様は私達に何回も祝福しなければならぬという感じがしますか。昇進しょうしんしても仕事をする途中とちゅうに興味なくなってしまうたら、落ち込み始めます。あるいは色々なテスト（トーフル）で満点を取れば嬉しくなるでしょう。でもしばらくして他のテスト（トーイック）に不合格になって不満になります。そしたら、私たちは次の神様からの祝福が私達を満足させるのを待ち続けます。この章の 58 節でイエスが「これは天から下って来たパンです。先祖せんぞが食べて、なお死んだようなものではありません。このパンを食べるものは永遠に生きます。すなわち、イエスが言っているのは、あなたが私のパンを食べれば、他に何も必要ないということです。「命を与えるのは私のパンです。私は世界に命を与えます。私のパンを食べなさい」

「結論」

さて最後の部分に達しました。34 節を見ると群衆はどうやら分かってきました。「そこで、彼らはイエスに言った。「主よ、そのパンをいつも私達にお与えください。」」と書いてあります。やった！ とうとう分かってきましたね。でも実は人々はまだ理解していませんでした。なぜかというと彼らはイエス様の与えたパンが何かをわかっていなかったんです。次の節をご覧ください。「イエスはいわれた。「わたしがいのちのパンです。わたしのもとうえるに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して乾くかわくことはありません。」」この節で、イエスは自分自身を明らかにして、指し示しさししめし、自分自身がパンだと言っています。イエスは「私があなたに与えたものに満足しないでください、私に満足してください」とおっしゃ

っています。世に命を与えるものは昇進しょうしんじゃなくて、満点じゃなくて、新しい友達じゃなくて、イエス様です。私たちを満足させるためにイエスキリストは来ました。しかし、満足は、汚れた服や傷の手ではなく、いばらの冠かんむり、十字架、そして死によってもたらされました。私達は満足な生活を出来るのはイエスが神様の怒りを満足させたからなのです。私達は救われたので、不安や非難ひなんから自由に生きることができます。イエス様の血によって提供される豊かな生活が出来ます。私達は様々なものを、自分たちを満みたすことができる神様のように追おい求もめ続つけてしまうのです。真しんの命のパンではなく、他のものを命のパンのように追おい求もめ続つけてしまうのです。私達が様々なものを、喜びを感じるために、自分の価値かちを生うみ出みすために、満みたされるために、追おい求もめますが、実は、私達が気づいていないのは、そのようなものを与えてくださる方かたが私達を追おい求もめて下くださっているのです。神様からもらった一人子によって、もらった命のパンによって、その憧あこがれれている生活を得ることが出来ます。そこで物事を神とは考えず、むしろ物事を神から提供ものごとされると考え始めます。そして持っているものをもっと楽しめます。その物事ものごとの提供ていきょうしゃ者しか満足な生活をあたえることができません。命のパンであるイエスはあなたを満足させることができる唯一ゆいいつの人です。私はすでにイエスを信じている人にこれを言います。今日イエスを味わってください。彼だけがあなたを満足させます。私はイエスを信じていない人にこれを言います。この世界には魅力的みりよくてきで多くのものがあります。しかし、あなたの魂たましいに満足を与えることができません。私の祈りは、あなたが今日イエスを信じることです。皆さんお祈りしましょう。